

横手地区統合校（仮称）整備及び横手支援学校移転事業に関するサウンディング型市場調査 サウンディング結果（概要）の公表について

令和8年7月23日
秋田県教育庁総務課施設整備室

1. サウンディング実施の経緯

秋田県教育委員会では、「横手地区統合校（仮称）の整備」及び「横手支援学校の移転」について、より効率的かつ効果的な整備を実現するため、サウンディング型市場調査を実施しました。

2. サウンディングの実施スケジュール

令和8年1月28日	サウンディング実施要領の公表
令和8年2月16・17日	説明会の開催
令和8年2月20・24・25日	現地見学会の開催
令和8年7月8・9日	サウンディングの実施
令和8年7月23日	サウンディング結果（概要）の公表

3. サウンディングの参加者

- （1）説明会参加者 3者
- （2）現地見学会参加者 3者
- （3）サウンディング参加者 3者

4. サウンディング結果の概要

（参加者からの意見・提案等）

提案者	A者
DB方式による整備を前提とした場合の懸念点、及び本事業において最適と考える事業方式の提案	・時間的・工程的な制約がある中、設計と施工を一体的かつ臨機応変に進めることで工期短縮が図れるため、DB方式が最適である。 ・設計段階から施工者が参画し、実務的なローリング計画を組み立てながら図面を作成できる。 ・円滑な遂行には工事期間中の教室移動などについて、学校側との合意形成が不可欠である。
DB方式で実施した場合の概算事業費とその積算根拠	・実勢価格や同規模現場での工事単価をベースとし、棟ごとに積み上げた概算額となっている。

整備内容や想定スケジュールに対する意見や提案	・統合校は校舎を使用しながら施工するため、備品の移動やインフラ停止時の仮設対応などについて、学校側と詳細な打合せを行い、ローリング計画を立案する必要がある。 ・支援学校については、既存備品等の仕分けや移動スケジュールが全体の工程に影響する。
未利用となる雄物川高校及び横手支援学校跡地の利活用に関する可能性や提案、また利活用にあたっての条件や課題	・雄物川高校跡地については、周囲の広大な水田地帯という立地特性を生かした農業関連施設を提案する。 ・横手支援学校跡地については、インクルーシブ施設の整備を提案する。
参画意欲の有無と参画の可能性を高めるための要望	・参画意欲あり
事業実施にあたって行政に期待する支援や配慮してほしい事項	・予期しない事態や、急激な物価高騰等が生じた場合は、金額の見直し等について協議できる仕組みを要望する。 ・今回のサウンディングに参加した実績について、事業者選定時における加点等の措置を検討してほしい。 ・地元企業がノウハウを蓄積できるよう、適正に評価する選定基準を設計してほしい。 ・地域貢献（地元若手採用数・地元従業員数・育休取得者数・奨学金返還助成制度活用数など）について、客観的な数値に基づき総合評価の加点対象としてほしい。
提案者	B者
DB方式による整備を前提とした場合の懸念点、及び本事業において最適と考える事業方式の提案	・現時点では既存建物の詳細図面や調査資料が不十分なため、改修内容を正確に把握することが困難である。 ・民間事業者の提案や創意工夫を発揮できる余地が限定的であり、従来方式が適していると考ええる。 ・DB方式を採用する場合は、事業者選定後に実施設計と詳細な工事費算定を行い、その結果を踏まえて本契約へ移行する段階的契約手法をとることでリスクの適切な整理が可能となる。
DB方式で実施した場合の概算事業費とその積算根拠	・既存建物の詳細図面や調査資料が不足しており、改修のグレードやリスク分担が不明確であるため、現時点で概算事業費を算出することは困難である。 ・事業費やリスクを適切に管理するため、施設維持管理まで一括して委託する手法が有効である。

整備内容や想定スケジュールに対する意見や提案	・現時点で具体的な事業スケジュールや工程を提示することは困難である。 ・事前にコンサルタントを導入して施設の調査や条件整理を行うことで、事業期間を短縮できる可能性がある。
未利用となる雄物川高校及び横手支援学校跡地の利活用に関する可能性や提案、また利活用にあたっての条件や課題	・賃貸借などの条件であれば、立地を活かした跡地利用は可能と考える。 ・他県において、廃校の体育館を市役所庁舎として活用した事例がある。
参画意欲の有無と参画の可能性を高めるための要望	・条件次第で、参画は困難ではない。 ・諸条件やリスク分担などを明確にする必要がある。
事業実施にあたって行政に期待する支援や配慮してほしい事項	・民間事業者が最も懸念する既存建物の詳細調査（アスベストや構造など）について、情報を整理した上で公募してほしい。
提案者	C者
DB方式による整備を前提とした場合の懸念点、及び本事業において最適と考える事業方式の提案	・設計と施工を一体で進められるため工程調整の効率化が期待でき、特に支援学校はDB方式との親和性が高い。 ・設計しながら順次に工事を行うことができるのが最大のメリットである。 ・設計者と施工者が予算上限内で柔軟に仕様等の調整ができるため、工程調整の効率化が期待できる。
DB方式で実施した場合の概算事業費とその積算根拠	・改修に必要な全項目を網羅し、実勢価格と公共事業単価を組み合わせで算出した概算額となっている。 ・増改築に伴う現行法への適合に加え、現行基準を満たすバリアフリー・省エネ断熱・空調更新費を含んでいる。 ・数量情報の精度向上や省エネ仕様、ローリング計画により概算事業費が増減する。
整備内容や想定スケジュールに対する意見や提案	・統合校の改修では、内部工事への影響や冬期間の施工制約を回避するため、内部改修に先行して屋根・外壁等の外部改修を行うことが合理的であり、着工を1～2ヶ月前倒しする工程計画が望ましい。 ・計画通知などの申請により、現行の設計期間での対応は極めて厳しいが、工区分割の明確化やスケジュールの再検討などにより対応は可能である。

	・支援学校は空き校舎の状態で一括施工ができるため、工程リスクが比較的小さく、DB方式の効率性を活かしやすい。
未利用となる雄物川高校及び横手支援学校跡地の利活用に関する可能性や提案、また利活用にあたっての条件や課題	・「教育・スポーツ・働く・健康・子育て」を一体化した通年型地域拠点としての活用を提案する。
参画意欲の有無と参画の可能性を高めるための要望	・既存建物における劣化情報の提供、学校との安全・工程調整、コストの枠組みなどの条件が整えば、参画は可能である。
事業実施にあたって行政に期待する支援や配慮してほしい事項	・建物の劣化状況や設備容量に関する詳細な調査情報の提供を希望する。 ・工事工程に影響する学校行事や動線制約など、学校側のスケジュールを早期に共有してほしい。 ・今回のサウンディングに参加した実績について、事業者選定時における加点等の措置を行ってほしい。

5. サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディングを通じて、事業方式や実施する事業内容、参画を高めるための条件などについて、貴重なご意見やご提案をいただきました。

今回のサウンディングの結果を踏まえて、事業方式や公募条件の整理・検討を進めてまいります。